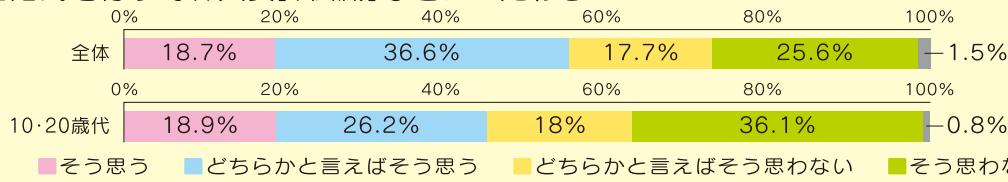


差別を生み出すもの① -昔から・・・、みんなが・・・-

日本には、古くからの言い伝えや考え方がありますが、あなたの考えにより近いのはどれですか

結婚式を行う時、「大安」「仏滅」などにこだわる



2020年度大分市
「人権に関する
市民意識調査」から

六曜

「祝い事」を行う時、「大安」などを選ぶ習慣があります。

2020(令和2)年度に実施した「人権に関する市民意識調査」において、『結婚式を行う時、「大安」「仏滅」などにこだわるか』との問いに、「そう思う」は18.7%であったのに対し、「そう思わない」は25.6%でした。また、10・20歳代は、全体よりも10.8ポイント高い54.1%が「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答しており、若い人ほどこだわらない傾向が強いことも分かりました。

六曜は、日の順番を表すものとして考えられたと言われており、旧暦の各月1日は固定されています。例えば旧暦の1月と7月の1日は先勝となっており、先勝の次からは、友引、先負、仏滅、大安、赤口、先勝・・・と、同じ順序で繰り返すようになっています。

この六曜は鎌倉末期から室町時代にかけて中国から伝わったとされていますが、もともと日の吉凶を示すものではありませんでした。当初、「仏

滅」は「空亡」と表現されており、ただ単に「よくない」という意味に過ぎず、現在の「仏滅」という表現とは似ても似つかないものだったといわれています。同様に「友引」についても文字の組み合わせから受けとる感じにとらわれ、本来もっていた意味が時代とともに変化してきました。明治時代に入ると新政府は、従来の太陰暦を太陽暦に変更するにあたり、日の吉兆を迷信として否定する方針を打ち出しました。しかし、このような禁止令にもかかわらず、暦に記入され続け、今日に至っています。一般的には仏教との関係もないとされ、科学的な根拠もありません。なお、現在の中国では全く使われていません。

丙午迷信

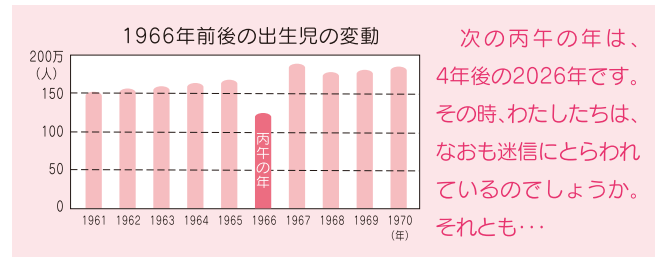
丙午は、干支の一つで、60年に一度回ってくる年です。「この年に生まれた女性は、男性を不幸にする」といううわさが江戸時代の中ごろから広がり、結婚できないことを苦にして自ら命を絶つ女性までいたそうです。

前回の丙午の年(1966(昭和41)年)の出生数を見ると、科学が進歩した近年でも、かなりの人がこだわって出産をひかえていることが下のグラフからもわかります。



※六曜の読み方は、「明鏡国語辞典第二版」(大修館書店)を参考にしています。

旧暦の
1月7月の1日は「先勝」
2月8月の1日は「友引」
3月9月の1日は「先負」
4月10月の1日は「仏滅」
5月11月の1日は「大安」
6月12月の1日は「赤口」
と決まっています。



わたしたちの身のまわりには、さまざまな慣習があります。多くは、幸福を願い、不幸を避けようとする意識に基づく自分を守ろうとする考えによって受け継がれてきたものです。この中には、「昔から・・・」「みんなが・・・」などの理由で、こだわったり、気になったりして、避けようとする心が生まれるものもあります。その心が差別を温存・助長したり、人権侵害(丙午生まれの女性との結婚を避ける、部落差別、仲間はずし、風評被害など)へとつながっていったりする場合があるのです。

一人ひとりが、「昔から・・・」「みんなが・・・」という理由だけで判断するのではなく、その根拠などを絶えず吟味しながら、様々な人の行動を認めることが、人権尊重の社会をつくることにつながっていくのではないのでしょうか。

差別を生み出すもの②

－ステレオタイプとは－

わたしたちは、特定の集団や人に対して、単純化したイメージを持ちがちです。その内容は様々ですが、例えば、「都会の人は洗練されている」といった肯定的なものから、「都会の人は冷たい」といった否定的なものまであります。このような固定化されたイメージを**ステレオタイプ**とといいます。ステレオタイプは誤りに気がついたり、多様な角度から事実を知ったりすることにより修正されていきます。しかしながら、修正されなかったステレオタイプは偏見へとつながることがあ

－ステレオタイプが作用するもの－

つくりかえられる自分

わたしたちが他者に対して抱く期待が、現実のものになっていくという現象を自己成就予言といいます。例えば、「女性は数学が苦手である」というステレオタイプが、女性の数学に対する苦手意識をつくりあげ、数学の得点が低くなるという現象が指摘されています。さらに、遊びで血液型性格判断をしているうちに、性格がその血液型のステレオタイプに近づいてしまうという現実もおこっています。

わたしたちが、「この子はこんな子だ」というマイナスのステレオタイプを持って接すると、その子がその通りに変わってしまう恐れがあるのです。

－ステレオタイプを少なくする－

ステレオタイプは、誰もが少なからずもっています。それを少なくしていくには、自分にもそのような傾向があると自覚することが必要です。

1. 批判的思考をする

「昔から・・・」「みんなが・・・」といって同調していると、いわば思考停止状態になってしまいます。情報として知ったことを自分自身で本当のことなのか考え確かめていくことが大切です。

2. 多様性を認める

自分に様々な面があるように、相手にも様々な面があるものです。一面だけを見て相手を判断するのではなく、いろんな視点から見て考えることが、相手への理解を深めることにつながります。

ります。

「偏見とは、ある集団に所属している人が、単にその集団に所属しているからとか、それゆえにまた、その集団のもっている嫌な性質をもっていると思われるとかいう理由だけで、その人に対して向けられる嫌悪の態度、ないしは敵意ある態度である」(G.W.オルポート「偏見の心理」より)とされています。そして、このような偏見が現代社会における差別を温存している1つの要因だと指摘されているのです。

強められる思い込み

人の記憶はあいまいなため、思い出す際に、自分自身が意味づけした内容に近い形で強調される傾向があります。

例えば、ある子どもに対して「生活態度が良い」というイメージが一旦形成されると、そのイメージに合致する情報のみが印象に残り、良いイメージが一層強調されるようになります。もし、その子どもがイメージと合致しない行動をとったとしても、例外扱いし、イメージの悪化にはつながらないという傾向が指摘されています。



「未来につなぐ」 大分市人権フォトコンテストの作品

3. 想像力をはたらかせる

「一番伝えたいことは、一番言えないこと」という言葉があります。想像力をはたらかせ「もし自分だったら」と相手の立場になって考えることで、相手への接し方も見えてきます。そして、そのことがより良い人間関係づくりにつながっていくのです。